

オンライン授業への意見

【ご意見・ご要望】

別添参照。

【回答】(回答日:2021年5月18日)

(回答部署:教育推進・学生支援部教務企画課)

ご意見ありがとうございます。

コロナ禍における授業方法について色々なご意見があることは、十分認識しています。
投稿いただいたご意見は、今後の授業方法を検討する際には参考とさせていただきます。
現状、今回の大学の対応にご理解・ご協力をお願いいたします。

【No.1】(投稿日:2021年5月8日)

5月7日段階で、次の授業方針を出すとのことでしたが、審議中とのことでしたので、意見を述べさせていただきたく思います。

昨年とは比べ物にならないほどの感染状況であり、かつ変異株が蔓延しているという状況で、オンライン授業の判断を即断できないのはいかなるものかと思えます。

自宅から公共交通機関を用いて通学する学生の心理的負担が非常に大きくなっています。

電車などは良く換気がなされている等といわれていますが、あれだけ人が密集していると、大きな効果があるとは考えられません。

また、実際に対面での授業が行われていた時に、大学側から食事中の会話を慎むように要請があったにもかかわらず、マスクを外したままの会話が多く見受けられました。この辺りは、制御しようにも不可能のように思われます。

しかし、大学が対面授業を行わないことは学生の権利の侵害であるといった声がありますが、オンラインでも十分に授業を受けることが出来ているうえ、コロナウイルスに感染し、重症化し、死亡または後遺症が残った学生は権利どころか生きる自由を失うこととなります。

オンライン授業により未然に防ぐことができるこの大きなリスクを、対面授業の強行で被るのはいかなることかと思えます。

その上、大学ではオンラインでの授業が可能であるということがまた大事な要素のように思えます。社会では、多くの業種がテレワークの推進の波があるにもかかわらず、テレワークを実施しなかったり、そもそもテレワークを行うことができない会社が沢山あります。

一方で、大学はオンラインでも授業が十分に行えることは昨年度で証明されています。

対面の方が教員と学生とのつながりが見える云々が言われていましたが、そんなことはないです。固定観念のようにこれを唱え続けるのは正直時代錯誤でしょう。

この感染拡大状態で、教員と学生のつながりと、感染拡大防止のどちらが大事ななど一目瞭然だと思われまます。

また、大学側は、今年度初めに対面での授業が嫌な学生は基礎疾患を持っていることの証明が必要であったと記憶しています。

身内に基礎疾患を持っているもしくは重症化リスクを抱える人がいる学生のことなど全く考えていないように感じました。

そもそも、熱や味覚症状などがあつたら大学に来ないように要請しているにもかかわらず、その対応を明確に定めることをせず、個々の授業の担当教員に丸投げしているなど、大学側の対応の甘さが見受けられます。

もともと病弱でコロナが怖い、感染して家族に迷惑をかけたくないなどの学生のために、ハイブリッドの対応もすることなく、対面で行った意味が良くわかりません。年度初めの段階で、まだコロナウイルスが十分猛威を振るっていたのにもかかわらず、です。

これに加えて、実習や実験においても、必要のない対面での授業がしばしば見受けられません。

実習室で、専用の器材を用いるならまだしも、PCでの実習や、課題の議論など、どう考えてもオンラインでも行えることを対面でやろうと思うのは少し怠慢が過ぎるように思われます。オンラインでは大変だ、などと考えていらっしゃるのかもしれませんが、世間はずっとコロナウイルスで大変だと思います。そもそも昨年度はオンラインで行っていたのだから、その反省を踏まえて、この状況下でオンラインで可能な実習ならば、オンラインで行うのが筋ではないでしょうか。

昨年度オンラインで大変だったから対面で行こう、は思考停止と言わざるを得ません。先に述べたように、反省を活かして、オンラインで行った方が、感染を防げていいでしょう。

最後に私の言いたいことをまとめると、以下のようになります。

オンラインか対面で行うのかの二択ではなく、コロナを恐れる学生は十分数いるので、もし対面で実施する場合でも、ハイブリッドで対応すること。

実習、実験は大切だから対面、などと思考停止することなく、オンライン(ハイブリッド)でも対応可能なものについてはオンライン(ハイブリッド)で行う。

大学は若者が非常に多く、かつ学生は行動範囲が広くなりがちです。そのため、感染を拡大させる十分な要因になっていると思われます。実際、学生の課外活動、授業が開始されてから、学生によるクラスターや、学生の感染が増えてきたことは間違いないです。

これ以上の感染拡大を食い止めるためにも、大学のオンラインでの実施が必要であると思います。

折角オンラインで授業を行える地盤があるにもかかわらず、実施せず対面でコロナのリスクに怯えながら授業を受けさせられるのは、御免被りたいです。

英断の程、よろしくお願いいたします。

【No.2】(投稿日:2021年5月9日)

このたびは大学院授業の実施方式に意見を申し上げます。

大学院授業は今後(新型コロナウイルス感染症が収束したとしても)恒久的にリモート化できないかということです。完全なリモート化は無理でも、対面授業をインターネット配信して、リモートでも受講できるという選択肢を用意してほしいです。

私は昨年、大学院授業をリモートで受講しましたが、特に不便は感じませんでした。私が受講した授業は、どれも基本的に「スライドや動画等の資料を見る⇒教員がそれについて補足説明をする⇒後に筆記の課題を行う」という流れで行われていました。もちろん、これは私が受講した農学研究科応用生物科学専攻の特別講義に限ったことかもしれませんが、この授業の流れでは対面で行う必要性を私はいっさい感じませんでした。むしろ、録画して見返せたり、チャット機能で教員からの質問に全員が答えられたり等、オンライン授業にしかないメリットを感じました。

それから、私は現在舞鶴の実験所で研究をしておりますので、京都の吉田キャンパスまで出向くのは時間的にも金銭的にも負担が大きいです。オンライン授業であれば舞鶴でやるべき実験やアルバイト等が授業のある日でも可能ですが、対面で行われるとそれが不可能になります。舞鶴から京都までの交通費も特急列車か高速バスで片道 2000 円以上かかります。京大は舞鶴水産実験所以外にも吉田キャンパスの外に多くの研究拠点があるので、吉田キャンパスで対面授業が相当な負担になる学生が私以外にもいます。

また、私が受講した昨年度の応用生物科学専攻の特別講義に限って言えば、実際に授業をする教員は京大以外の所属でした。オンライン授業を行えば、特に外部の教員が授業をするにあたって、外部の教員にとっても時間を浪費せずに済み、京大にとっても出張費等の経費削減ができるので、双方にメリットがあるのではないのでしょうか。

私は他研究科の授業の形式や内容についてはよく分かりませんし、対面授業の効果も否定しません。ただ自身の経験を踏まえて、大学院の授業は今後も恒久的にオンラインで受講できるという選択肢があったほうが良いと考えます。

【No.3】(投稿日:2021年5月10日)

4月22日よりオンライン授業に移行することとなり、3週間が経過しようとしていますが、5月31日までこの措置が延長されることになりました。このことについて、反対の意見を述べさせていただくとともに、今後どうすべきかのご提案をさせていただきます。

まず、オンライン授業への移行措置の反対についてです。そもそも、大学とは、講義を受けるだけの場ではなく、講義を踏まえて友人たちと勉強会を開いたり議論を交わす場、友人や先輩、教員との間の人脈を作って社会に出る準備をする場としても大きな意味を持つと考えます。ですが、オンライン授業ではこれらの機会が奪われます。これでは、大学に通う意義の半分以上が失われていると言っても過言ではなく、何のために大学に通っているかわからないとさえ言えます。対面授業での感染リスクはもちろんありますが、感染対策をとりながら大声で話すことをするわけではない対面授業を行うことにいったいどれほどのリスクがあるのでしょうか。対面授業が原因となって感染が確認されたというような事例が多発しているのでしょうか。対面授業を行うことと感染リスクとの間の因果関係にエビデンスはあるのでしょうか。そのリスクと、オンライン授業によって失われる学びの機会を比較するとき、本当にオンライン授業への移行が正しい措置と言えるのでしょうか。大学における学生の学びの機会を奪わないでいただきたいです。

また、今後どうすべきかについてですが、提案させていただきます。

- ①一律にオンライン授業とするのではなく、対面授業を希望する学生とオンライン授業を希望する学生がいることにも配慮して、ハイブリッド方式の授業形態にする。
- ②そもそも緊急事態宣言の下での京都府からの要請は、一度に入構する学生を50%にするというものであるから、対面授業を希望する学生が、全体の50%を超える場合は、学籍番号等によりグループ分けを行なった上でグループごとに隔週での登校を認める。または、授業をグループ分けし、隔週で対面授業とオンライン授業を交互に行う。

このように、可能な限りで対面授業を継続する方法を模索していくべきではないでしょうか。